

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 20 号

目次

- | | | |
|------------------------------------|---------------|--------|
| 1. 巻頭言 | 支部長 岩井 千秋 | pp.1-2 |
| 2. 2017 年度秋季支部研究大会報告 | 大会実行委員長 中住 幸治 | p.3 |
| 3. 2017 年度支部第 2 回役員会報告 | 事務局幹事 三宅 美鈴 | p.4 |
| 4. 2017 年度支部研究会 第 9 回 OPP イベント報告 | OPP 代表 三熊 祥文 | pp.4-5 |
| 5. 2018 年度春季研究大会発表応募要領 | | pp.5-6 |
| 6. 2018 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集 | | p.6 |
| 7. 事務局だより | | pp.6-7 |
| 編集後記 | | pp.7-8 |
| 【重要】 ニュースレター (NL) 配信についてお願い | | pp.8-9 |

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩井 千秋

JACET 中国・四国支部の会員の皆様、お変わりありませんか。この NL がお手元に届くころには、新年を迎えていることと思います。遅ればせながら、「明けましておめでとうございます。」ICBM ミサイルが日本列島を横切ったり、一方的に他国の首都を宣言する大統領が物議を醸したりと、2017

年は何かと騒がしい年でした。「平成」も実質的には今年でほぼ最後、どうか平穏な 1 年であってほしいものです。

さて、私たちの支部に目を向けると、昨年も 2 回の支部大会で盛り上がりました。6 月 3 日の春季大会 (岡山大学) では小山尚史先生に、10 月 21 日の大会 (香川大学)

では中住幸治先生に大会実行委員長（会場校責任者）としてお骨折りいただきました（香川大学では水野康一先生にもお世話になりました）。多くの先生方や院生にご発表いただき、また来場者にも恵まれ、盛会となりました。お世話になったすべての先生方に心よりお礼申し上げます。それから、支部研究会で実施しているOPP発表イベントが12月17日（日）に県立広島大学で開催されました。OPP新代表の三熊祥文先生（広島工業大学）、会場校の吉本和弘先生には大会の準備等、ありがとうございました。OPP活動も今年は節目の10年目になります。私も発表に参加させていただきましたが、こうして交流の和が広がり続け、嬉しい限りです。それから、紀要15号ももうすぐ刊行されます。編集委員長の平本哲嗣先生（安田女子大学）によると、この号にも多くの論文が投稿されました。紀要は学会活動の要、会員の皆様には研究成果の発表の場として大いにご活用いただきたいものです。

次はJACET本部の動向についての報告です。12月23日（日）に副支部長の高橋俊章先生（山口大学）と一緒に理事会に出席してきました。すでに本部発刊のニューズレターでもお知らせがありましたが、JACETは2013年4月に一般社団法人に移行することを決め、内閣府の監視のもと、毎年事業計画や予算関係資料を提出するなどして、組織整備が行われてきました。昨年8月28日に最終報告書が内閣府に受理され、晴れて5年の移行期間が終了しました。喩えれば、これは大学や学部の新設時に文科省の監督下に置かれるのと同様で、この間は学会の意向で定款や人事を動かすことはできませんでした。法人化手続きの完了は、今後、JACETは独自の判断でさまざまな事業を企画・実施できるようになることを意味します。寺内一会長には我慢の1期目から、躍動の2期目を迎えられました。こうしたことから、12月の理事会は通常の会議を1時間は優に越えたのですが、その時間の多くが新規事業計画の検討に費やされたという次第です。例えば、若手研究者への支援事業や海外学会とのより強固な連携、

共同研究の促進や刊行物を含む研究発表の機会の確保などが案として執行部から出されました。今後、各担当委員会等でさらに検討が進められ、次回以降の理事会で協議されることになる予定です。新企画に目処がたてば、このニューズレターでもお知らせしていきたいと考えています。

こうした新たな取組みが検討される一方で、予算収支のバランスも議題にのぼりました。ご存知の方も多いかと思いますが、JACETは支部の独立採算制ではなく、会員年会費などが本部に振り込まれ、各支部の会員数に応じて支部予算が配分される仕組みです。近年は、国公私立の区別なく、学会開催時には高額な会場費が必要になるなど、支出額も膨らんでいます。JACET全体では年間2千万円を超える予算の出入りがあり、その主な収入源は年会費と国際大会参加費です。理事会では、ただちに有効な妙案には至らなかったものの。年会費未納者を少なくする努力も重要であることなどが話し合われました。

さて、今年に目を向けますと、春季支部大会が筆者の所属している広島市立大学で6月2日（土）に、秋季支部大会が松山大学で10月20日（土）に開催される予定です（支部役員会で決定済み）。また、国際大会は8月28日（火）から3日間の予定で、東北学院大学土樋キャンパスにて開催されます。公務等で多忙な日々ですが、学会は「楽会」、職場のしがらみや煩雑な日常業務から開放され、大学英語教育を通じた「社交」の場として、多くの先生にこの交流の場を満喫していただければと思います。今年も多くの会員の皆様との出会い、再会を楽しみにしています。

（広島市立大学）

2. 2017年度秋季研究大会報告

大会実行委員長 中住 幸治

大学英語教育学会(JACET) 中国・四国支部 2017 年度秋季研究大会は、平成 29 年 10 月 21 日(土)に、香川大学法学部棟を会場にして開催されました。本研究大会では 12 件の研究発表と 2 件の講演が行われ、台風接近という悪条件の中 40 名弱の参加者がありました。

開会式の後、研究発表が 3 教室に分かれて行われました。第 1 室では、1) Can Conceptual Metaphor help us teach Linguistic metaphor? (Andrew Tidmarsh 先生：愛媛大学), 2) 広島大学における TOEIC®L&R テスト演習を中心とした授業実践 (森田光宏先生・吉川りさ先生・阪上辰也先生・鬼田崇作先生・草薙邦広先生・榎田一路先生・上西幸治先生：広島大学), 3) チーム基盤型学習 (TBL) において概念理解に影響を与える要因の質的検討ー英語教育学専門科目のアクティブ・ラーニング授業実践からー (関谷弘毅先生：広島女学院大学), 4) 中学校の英語授業における 4 技能の統合的な活動の類型化 (北木律子さん：安田女子大学大学院) の発表が行われました。第 2 室では、1) 英語学習におけるワーキングメモリの働きについてー処理と保持に焦点をあててー (藤村美希さん：安田女子大学大学院), 2) 日本人英語学習者が正しく冠詞の選択が出来ない原因に関する量・記述的分析 (高橋俊章先生：山口大学), 3) 「音読」から「表現活動」へー学生の相互評価を活用してー (小崎順子先生：川崎医療福祉学), 4) 下位レベル学生における多読のあり方に関する一考察ー授業内外での多読の試みからー (三宅美鈴先生・山中英理子先生・遠藤利昌先生：広島国際大学) の発表が行われました。第 3 室では、1) 小学校外国語活動と中学校英語科の円滑な接続につい

てー語彙に焦点を当ててー (岡田紗希さん：安田女子大学大学院), 2) 意味重視のアウトプット活動が学習者の教授言語に対する好みに与える影響 (岩中貴裕先生：山口学芸大学), 3) 大学英語教員の教育に関わる役割認識についての質的研究 (森谷浩士先生：広島経済大学), 4) 翻訳例に基づく呼称についての一考察 (堀部秀雄先生：広島工業大学) の発表が行われました。全体として小・中学校英語教育研究、大学英語教育授業実践、アクティブ・ラーニング、言語学、文体論など多岐に分かる内容で、示唆に富み知的刺激を喚起されるものばかりでした。

休憩後、2 件の講演が行われました。まず香川大学の Ian Willey 先生による “The needs Analysis: Why We Need it, and How to Conduct One” という題の講演では、異なる規模の病院に勤務する医師・看護師対象の、現場で必要とされる英語力に関する調査を通じて、needs analysis 及び ESP (English for Special Purposes) の重要性が示されました。続いて香川大学の Gerardine McCrohan 先生による “The Importance of Register in Communication Strategies” という題の講演では、習熟度の異なる大学生を対象とした英語の丁寧表現の使用に関する調査を通じて、文脈に応じた英語表現に関する知識を持つだけでなく、実際に状況に応じて使い分ける練習を行い定着を図る重要性が示されました。

今研究大会の実施に際しては香川大学法学部の後援を頂き、研究発表以外に桐原書店からの出展も頂きました。ご多忙な中、研究大会にご協力頂いた、研究発表者・参加者の皆さま、大会事務局の方々に深くお礼を申し上げます。

(香川大学)

3. 2017年度 JACET 中国・四国支部

第2回役員会報告

事務局幹事 三宅 美鈴

2017年10月21日(土)に開催された第2回支部役員会にて、2018年度の事業計画(案)、予算(案)および人事(案)について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

1) 春季研究大会

日程：2018年6月2日(土)

場所：広島市立大学

(広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号)

2) 秋季研究大会

日程：2018年10月20日(土)

場所：松山大学

(愛媛県松山市文京町4番地2)

3) Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日程：2018年12月16日(日) 予定

場所：未定

4) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』(第16号)

発行：2019年3月31日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2018年7月30日(第21号)、2019年1月10日(第22号)(予定)

人事案については、「事務局だより」をご覧ください。

4. 2017年度支部研究会 OPP イベント報告

OPP 代表 三熊 祥文

OPP2017が昨年末の12月17日(日)に県立広島大学広島キャンパス大講義室にて開催されました。2017年度よりOPPの代表を引き継ぐことになり、交代後初めてのイベントである今回は通算9回目となります。オープニングにおいて「変わらず続けることが大事、変わらないということは実は変化が必要、代表の交代という変化にみなさん気づかなければいいな(変わらないでいる)」という趣旨の話をしました。私自身はやはり岩井先生でなければダメだよね、というご批判を覚悟していたのですが、このイベントの素晴らしいところはコーディネーター教員がそれぞれ「よってたかって」会を成立させている点です。今回も例に漏れず、代表の変更ではビクともせず、素晴

らしいイベントとなりました。OPP研究会を代表して、皆様に心からお礼申し上げます。とりわけ会場校をご提供いただいた県立広島大学の吉本和弘先生、上斗晶代先生および同大学関係各位に厚くお礼申し上げます。

今回は9回目にして初めて県立広島大学が会場となりましたが、このイベントに対してジャストフィットなサイズかつ重厚感も兼ね備えている素晴らしい会場でした。発表内容に関しては、今年も意欲作が目白押しでした。手前味噌になりますが、広島工業大学の“PPAP (PowerPoint Addicted People)”は日本のプレゼン全般に対する警鐘の意味を込めて制作したものです。メッセージは「プレゼンとは人であり言葉であ

り体であり、スライドではない」というものでした。ある意味 OPP に対しても振り返りを要求するかもしれない問題作となりうる危うさを内包していました。しかしこと今年度の OPP に関して言えば、PPAP は杞憂に終わりました。すべて心を込めて作りこまれた体と言葉による表現を通した見事な発表ばかりでした。山口学芸大学の“Pakiemon”など「人」が前面に押し出された最たる例だったと思います。

以下にプログラム(発表順)をご紹介します(記載内容は、指導教員名(敬称略)、大学名、発表タイトル、カッコ内に参加学生数)。

- ・ 吉本和弘 県立広島大学 Drama in English: “Descendants” (17)
- ・ 岩井千秋 広島市立大学 Choral reading and songs based on “A Girl from Fukushima” (11)
- ・ 三熊祥文・堀部秀雄 広島工業大学 “HIT-Chants 2017”～ Original Speech & Chants: “PPAP!” / Academic Presentation: “Various Methods of Power Generation～which one can be

the best?” (10)

- ・ 上斗晶代 県立広島大学 “An excerpt from the monologue of Hamlet, Act III, Scene I: with Shakespeare’s original pronunciation and the present-day pronunciation” (2)
- ・ 三宅美鈴・山中英理子 広島国際大学 “Visiting the Four Seasons through the Works of Tomohiro Hoshino” (4)
- ・ パーキン ダグラス・岩中貴裕 山口学芸大学 “Pakiemon – Teacher Dreams!” (5)
- ・ 二五義博 海上保安大学校 “It’s not just the Sea Monkey” (11)

“Sustainable”(持続可能)という語は時代のキーワードと化しています。冒頭で述べたように「良いものなら継続しなければならない」、しかし「継続するためには変化しなければならない」。OPP 研究会では accommodate 可能な範囲での新規参入という変化の可能性も含めて、来年もより多くの皆様からのご関心を維持できることを願っております。

(広島工業大学)

5. 2018 年度春季研究大会発表募集要領

2018年6月2日(土)に2018年度春季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部春季研究大会

日時：2018年6月2日(土)

場所：広島市立大学

(広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号)

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

- a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語
- b. 種別 (Style) : 自由研究発表, 実践報告, 事例研究など

c. 氏名 (Name) :

d. 研究領域 (Research Area) :

e. 概要 (Abstract) : 目的, 背景, 仮説, 方法, 結論, 引用文献など日本語の場合は 600 字以内, 英語の場合は 250 words 以内とする。

f. 所属 (Affiliation) :

g. 使用機器 (Equipment needed) :

h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2018年5月21日(月)

午後11時59分まで

■申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください(発表, および懇親会への参加申込ができます)。

<https://ws.formzu.net/fgen/S78585634/>

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML, および支部 HP でお

知らせします。(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 岩中 貴裕
iwanaka@y-gakugei.ac.jp

6. 2018年度『JACET中国・四国支部研究紀要』投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文, リサーチ・ノート, 実践・研究報告, およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として, 年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は, 所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については, この限りではありません。

投稿論文は, 原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は, 委嘱原稿を除き, 紀要編集委員会が指名する審査員が担当し, 査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上, 奮ってご応募ください。

なお, 発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り: 10月末
- 審査結果通知: 12月末
- 修正原稿締め切り: 1月末
- 刊行: 3月末

なお, 投稿資格は, 所定の学会費を完納した支部会員に限ります。複数名による投稿の場合には, 必ず本支部会員1名を含むこととし, その他の投稿者も論文投稿時には JACET 会員でなければなりません。

投稿先: 支部HP フォームズから

お問い合わせ: 紀要編集委員会委員長
岩井千秋 (広島市立大学)

E-mail: iwai@intl.hiroshima-cu.ac.jp

7. ～事務局だより～

2017年8月から2017年12月までの新入会員をご紹介します。

★新入会員紹介★

明木 スーザン	(岡山大学)
Tidmarsh, Andrew	(愛媛大学)
中西 大輔	(広島修道大学)
	(敬称略)

皆様, どうぞよろしくお願いたします。

2018年度の支部人事(案)および本部運営委員(案)をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので, よろしくお願いたします。

★2018年度支部人事(案)★

(2018年6月定時社員総会まで)

【支部役員】

支部長 岩井千秋 (広島市立大学)
副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (*は事務局幹事)

*三宅美鈴 (広島国際大学)
岩中貴裕 (山口学芸大学)
(なお6月からは岩中貴裕先生が支部幹事に
変更になります)

支部会計担当者

堀部秀雄 (広島工業大学)

支部研究企画委員 (24名)

五百蔵高浩 (高知県立大学)
池野 修 (愛媛大学)
岩井千秋 (広島市立大学)
岩中貴裕 (山口学芸大学)
上西幸治 (広島大学)
折本素 (愛媛大学)
小山尚史 (岡山大学)
高垣俊之 (尾道市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
瀧由紀子 (松山大学)
田辺尚子 (安田女子大学)
田淵博文 (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
中住幸治 (香川大学)
中山 晃 (愛媛大学)
西田 正 (平成29年度末まで (福山大学))
二五義博 (海上保安大学校)
平本哲嗣 (安田女子大学)
堀部秀雄 (広島工業大学)

【編集後記】

あけましておめでとうございます。皆様
におかれましては、新年度に向けて教育そ
して研究に邁進されておられることと存じ
ます。

さて、私事ではございますが、事務局と

松岡博信 (安田女子大学)
三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)
山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 岩井千秋 (広島市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
総務委員会 (支部事務局幹事) 6月まで
三宅美鈴 (広島国際大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
堀部秀雄 (広島工業大学)

国際大会組織委員会本部

山川健一 (安田女子大学)

『JACET 通信』委員会

松岡博信 (安田女子大学)

学術出版委員会紀要担当

平本哲嗣 (安田女子大学)

セミナー事業委員会 サマーセミナー担当

田淵博文 (就実大学)

研究促進委員会

岩井千秋 (広島市立大学)

学術交流委員

堀部秀雄 (広島工業大学)

大学英語教育学会賞運営委員会

池野 修 (愛媛大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★

● 『支部紀要』第16号

2018年3月31日刊行(予定)

● 『大学英語教育学会中国・四国支部ニ
ューズレター』

2018年7月30日(第21号)発行(予定)

2019年1月10日(第22号)発行(予定)

NLを担当させていただいておりましたが、
この3月を持って勤務大学を定年退職とな
るのを契機に、支部のお仕事からも退かせ
ていただくことになりました。長年に渡り、
仲間・同志という連帯感を持って、研究・
教育だけでなく公私ともに充実した教員生

活を送れたことは、只々本学会のお陰と感謝に絶えません。

6月からは山口学芸大学の岩中貴裕先生に事務局とNLの仕事を引き継いでいただくことになっております。これまでと同様にご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

ざっと振り返りますと、2004年から会計を担当させていただき、2007年～2010年支部事務局幹事、中断し（その間2011年～2015年は平本先生が事務局幹事）その後2016年2017年に再度事務局幹事を務めさせていただきました。その間にJACETの社団法人化など大きな変革も体験させていただきました。大変でしたが、今思えばいい思い出として残っております。

このNLとは、再開したNo.1から担当させていただきもう10年になります。拙い内容でしかお伝えできませんでしたが、今後とも途切れることなく、会員の皆様と学会と

の架け橋になるような存在であってほしいと願っています。

今しばらくは、客員教授として学生と繋がっていきますが、同様に本学会とも細く長くお付き合いできればと願っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様にとって、本年も良いお年でありますよう心よりお祈りしております。



(M.M)

【重要】JACET(大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩井 千秋(広島市立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 支部 HP

(<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。

2. 入力フォームのサイトのページ

(<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。

3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

すでに登録している

希望する

希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の岩中(iwanaka@y-gakugei.ac.jp)までお問い合わせください。

メールアドレス, 所属などが変更され

た方は, **本部事務局**に, まずお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第 20 号 2018 年 1 月 10 日 発行 発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 岩井 千秋) 編集 : JACET 中国・四国支部 三宅 美鈴 発行所 : 〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 保健医療学部医療技術学科 三宅 美鈴 連絡先 : Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp
